



目 次

カイコの多面利用と文献 購入希望図書について 日本を愛した科学者—スタンレーベネットの生涯— 燈火春秋⑨
閲覧室の様様替えについて 投書箱「図書館の窓」へのお答え 平成6年度電気通信普及財団の寄付金による購入図書資料について 情報検索コーナーからのお知らせ 平成7年度図書館カレンダー（その3）

カイコの多面利用と文献

小 原 隆 三

昆虫は地球上に100～200万種いるといわれている。そのうち、人類に古くから利用されてきたのはカイコとミツバチである。カイコといえば衣料素材としての絹、光沢と風合いがよい、吸、放湿性が優れている、保温力が高いことなど高級衣装を思いうかべる。また、明治以来宮中において天皇が毎年みづから水田に入られてお田植される、と同様に皇后が養蚕にお手をかされるという慣習が続いている。イネとカイコはともに日本文化に大きな影響を与えていると考えられる。

カイコの利用は約7,000年前からといわれ、養蚕の起源は中国であると考えられる。日本への伝来は弥生時代中期頃で、古事記や日本書紀にカイコに関する多くの記述があり、また魏志倭人伝にはヒミコが国産の絹を魏に献上したとの記述もある。

カイコは何千年もかかって人間の手で改良・保護されてきた特異な昆虫である。野外では孵化幼虫は自力では定着できない。しかし、室内飼育では人に危害を与えるとか、逃げだすこともなく大変おとなしく飼い易い虫である。

カイコの一生は卵、幼虫、蛹、成虫と完全変態する。幼虫は桑葉を用いて25℃で飼育すると、よく食べて普通4回の脱皮を経て24～25日で糸を吐き始める。その間、体重は約一万倍に、絹糸腺は約16万倍、体重の30%強に達するという驚くべき増加を示す。そして、1500mもの切れ目のない1本の糸を吐いてきれいな繭を作る。カイコをめぐる話題を平易な読物とした小林勝利他編「シルクのはなし」技報堂出版（1993）がある。

カイコは生糸として衣料への利用が主体で、また教材や研究材料としてよく使われている。近年、新しい利活用がされるようになった。その例について述べる。

1. シルクサイエンス研究会編「シルクの科学」朝倉書店（1994）の中に広く絹の利用について紹介されている。

(1)機能性食品 絹が無害なことは蛹や蛾の佃煮を食用として食べることから類推された。しかし、分子量が30万以上もある絹（フィブロイン）が消化、吸収されるかという疑問がのこる。平林教授らは絹

を分解し、それを中和、脱塩し粉末にして色々な食品に入れ商品化している。絹を構成するアミノ酸のうちグリシンは45%、セリンは12%を占め、これらは血液中のコレステロールを低下させる作用がある。30%を占めるアラニンは肝臓機能を強化し、アルコール代謝を促進することをラットを使った実験で明らかにした。また、5%を占めるチロシンは痴呆症に予防効果のあることが知られている。

そこで、丹後の加悦町では大量にでる縮緬くずを上記の方法によって処理し、焼却時にでる悪臭を防ぐと同時に、絹の粉末を餡、せんべい、うどん、おかゆ、そば、豆腐などに添加しシルク食品として販売し、村おこしに利用しているという一石二鳥の効果を上げている。その他、シルクドリンクやゼリーも作られている。

(2)化粧品 ある会社でフィブロイン粉末を作る技術が確立してから色々な化粧品に利用されるようになった。この粉末は肌に対する滑りがよく保湿性や紫外線吸収性などの機能を有するので口紅に利用されている。また、フィブロインを加水分解して得られるペプチドは毛髪に吸着し、毛髪表面のスケールの損傷や変色を防ぐ効果があるので整髪剤やセット剤として利用されている。

2. 昆虫に病気を起こすウイルスの利用について。

カイコには膿病あるいは核多角体病 (NPV) というバキュロウイルスによって起こる病気がある。このウイルスは血液中の脂肪体や血球などの核内で増殖し、感染後期の核内には多角体を形成する。この多角体の主要構成タンパクであるポリヘドリンは、感染後期の細胞のタンパク質成分の20~30%を占める。多角体の役割は、昆虫体外でのウイルス粒子の保護であり、ウイルスの増殖には必須ではない。従って、多角体の主成分であるポリヘドリンの遺伝子をインターフェロンなどの外来遺伝子に置きかえればウイルスは細胞内で正常に増殖し、しかも目的の外来遺伝子が大量に発現されるものと期待される。このような発想から、本学の元教官前田 進博士(カリフォルニア大学) は新しいベクターとしてカイコ NPV を利用したシステムを確立し、ヒトの α -インターフェロンの発現に成功した(1985)。このことに

については先生の著書「昆虫ウイルスとバイオテクノロジー」サイエンスハウス (1993)、昆虫利用科学シリーズ③に詳しい解説がある。現在、このシステムがネコインターフェロンの生産に用いられている。これはわが国初のバイオ動物用医薬品であり、また遺伝子操作によるカイコを用いた工業化は世界で初めてである。また、昆虫の病気やその利用について分かり易い解説書として私の先生である渡部 仁著「微生物で害虫を防ぐ」裳華房 (1988) を紹介したい。

以上、カイコの新しい利用の一端について述べた。これからの人間生活と昆虫との関係を見る時、益々多様な利用が考えられる。21世紀に向けて昆虫関連の産業は飛躍的に発展するものと思う。今後の研究展開に期待している。

(農学部教授 生物生産学)



「購入希望図書」による購入について

(本年1月～8月希望分)

購入希望を記入していただいたみなさん、ありがとうございました。

ここに購入出来ましたものを紹介致します。折角記入していただいても、既に所蔵しているもの、品切れ・絶版等により購入出来なかったものもありますが、悪しからずご了承下さい。

著 者 (編者)	書 名	発 行 所	備 考
リンカーン・カースティン	クラシック・バレエ	音楽之友社	
深川, ソロフスキー共著	日本の数学 一何題解けますか?一	森北出版	
後 藤 他	有機化学実験のてびき1～5	化学同人	
中山 研 一	刑法入門	成 文 堂	
山 科 他 訳	レーニンジャーの新生化学 (下)	廣 川 書 店	
	吾妻鏡 1～4	吉川弘文館	
奥 崎 謙 三	ヤマザキ天皇を撃て	新 泉 社	

(記入についてお願い)

図書館では利用者の声には出来る限り応えようとしていますが、次の点を留意して購入希望図書の記入をお願いします。

1. 図書館に備え付けるべき内容で、多くの人が利用出来ると考えられること。
2. 廉価な図書や個人的興味本意のものは自分で購入して下さい。
3. あらかじめOPACで検索して重複していないことを確認の上、記入して下さい。

資料サービス係からのお知らせ

1. 利用者カードを受け取りに来て下さい。

在学生(新入生を除く)のうち未だ500人の方が利用者カードを受け取っていません。このカードがないと図書館の本は借りられませんので、再度お知らせします。

注意 学生証と印鑑を持参して下さい。

交付時間は平日9時～12時, 13時～17時です。

2. 研究生等のみなさんへ

図書館では学部学生・大学院生・教職員に限らず、鳥取大学に在籍の方には利用者カードを発行しています。

研究生・留学生・外国人研究者等, 図書館カウンターに申し出て下さい。利用者カードを発行します。受付は上記交付時間です。

(資料サービス係)

私の選んだこの一冊

加藤恭子著 日本を愛した科学者 スタンレー・ベネットの生涯

(シャパンタイムズ, 1994)

飯野 晃 啓



晩年のベネット博士夫妻

スタンレー・ベネット
Stanley Bennett 博士は1910年(明治43年)鳥取に生まれた。両親が米国伝道会の宣教師として、鳥取に根をおろしていたからである。両親は鳥取教会(鳥取市西町1丁目)を拠点として伝道を続け、鳥取幼稚園(現在の愛真幼稚園)を創設、幼児教育にも力を入れた。父ヘンリー・ベネットの活躍は「近代百年鳥取県百傑伝」にも郷土の誇りうる鳥取県人として紹介されている。この書からでも父ヘンリーが、鳥取の土地にいかに馴染んでいたかが想像される。

スタンレー・ベネット博士は13歳まで鳥取で過ごした後、米国での教育を受けるため鳥取を去ったが、両親の厳しい日本語教育と幼な友達との会話の中から、日本語会話の基礎はその時まで身に付けていた。ベネット博士は後にハーバード大学医学部を卒業、解剖学者、細胞生物学者として研究の道に入った。太平洋戦争中は軍医中佐として戦争に参加し、戦争末期には沖縄本島に上陸した。1948年、38才の若さで、シアトルにあるワシントン州立大学の解剖

学主任教授に就任、研究と教育との生活に本格的に入った。

加藤恭子氏(上智大学講師)の筆になったこの伝記は、この沖縄戦での感動的な出来ごとから始まっている。スタンレー・ベネット博士にとって、日本は文字通り生まれ故郷であり、日本の歴史、文化、習慣等は我々日本人が教えをこわねばならぬほど熟知していた。終戦後、ワシントン州立大の教授となった若きベネット博士は、日本人の若手研究者を研究室に招き、新しい解剖学すなわち、電子顕微鏡を使つての微細解剖学を指導した。後に日本解剖学会、日本電子顕微鏡学会をぐいぐいと引っばっていた山田英智(東大名誉教授)、浜 清(国立生理学研究所長)、永野俊雄(千葉大教授)などなど、今はそうそうたる指導者となっている当時の若き研究者達を次々と招いて、共同研究すると同時に電子顕微鏡的指導を行った。

晩年、ベネット博士はノースカロライナ大学に移り、解剖学教授兼「生殖生物学研究所」所長として、さらに多くの学者を育て続けた。

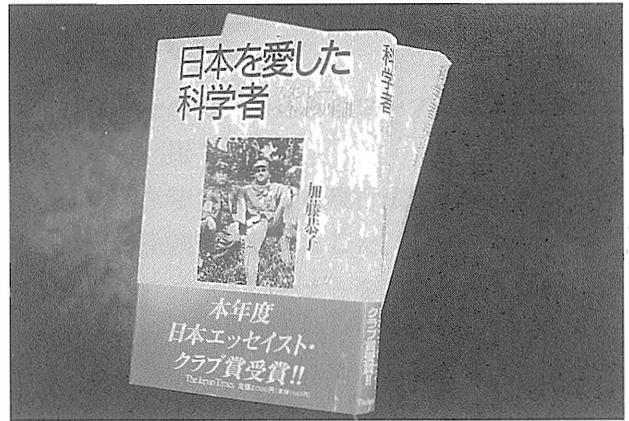
私自身も電子顕微鏡の仕事がしたかったし、日本解剖学会総会にて発表した研究を、参加していたベネット教授が興味ある研究と評価してくれ、数年後に博士は40才の未熟な私を客員教授の待遇でノースカロライナ大学医学部に呼んでくれた。「何でも自由に研究しなさい。ただ木曜日の午前中は医学生に組織学(顕微解剖学)を教えてあげて下さい。」という条件であったので、ノースカロライナ大学の1年数ヶ月は研究はもとより家族3人でアメリカの生活を心ゆくまでエンジョイ出来た。

この伝記は、多くの証言を日米から集め、あらゆる角度からエピソードを興味深く綴ってある。人間

ベネット博士を浮き彫りにしながら、日本人研究者がいかに影響を受けたかをつぶさに知ることが出来る。2～3年に一度ずつは日本を訪れ、学会初め各大学で講演をしながら、必ず生まれ故郷鳥取を訪れ、その度に鳥取大学医学部学生や研究者への講演で我々を感動させてくれた博士も病気には勝てず、1991年8月逝去された。偉大なる一科学者の生涯と日本人研究者達との交流を綴った本書は研究者、学生に広く読んでいただきたい名著である。

加藤恭子氏はこの書により本年、第43回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。

さらに加藤恭子氏は、ベネット博士が太平洋戦争中、戦場から妻にあてた手紙を翻訳し一冊の本にまとめ、ごく最近発行した。



「戦場から送り続けた手紙～ある米海軍士官の太平洋戦争～」というものである。合わせて読んでいただければ更なる感動を受けられると思う。

(医学部教授 解剖学)



CD-ROMが増えました!

☆医学部のサーバで提供されているMEDLINE：生物医学文献データベース(1966～)を鳥取地区でも利用出来ます。図書館に置いてある2台のMacintoshは平日の17時までの利用ですが、登録申請すれば研究室から24時間利用出来ます。

☆CD-HIASK：朝日新聞記事データベース1992年、1993年を利用すれば、言葉から記事を見つけることができます。ただし、原紙の全文が入っている訳でなく、著作権のあるものは省かれています。

☆NDL CD-ROM LINE 雑誌記事索引カレント版(1990年～)は国立国会図書館に納本された学術雑誌論文の索引データベースです。論題中の言葉や著者はもちろんのこと、雑誌名や固有の分類コードを手がかりにして検索することが出来ます。

なお、冊子体の雑誌記事索引は、平成7年度で刊行中止となります。

(学術情報係)

燈火春秋⑨

一 冊 一 生

—福翁自伝—

伊 藤 恵

1

嘗て、未来や理想や人生について語り合う度に、筆者の友人が口癖のように言っていた言葉がある。「人は誰でも、一冊の本を書くことが出来るんや」つまり、自伝である。

世の中カルチャーセンターばかりとなり、自分史という新語まで出来た昨今ではあるが、それでも自伝を書いた、書こうとしている、書きつつある人はどれ位いるだろうか。

自分史も結構。しかし、書くに値する人生だったかどうか。波瀾万丈であればいいのではない。

2

福沢諭吉の自伝は、そのまま日本文化の混沌と夜明けを著わしている。鎖国から新時代の黎明期、明晰で冷静な分析・批判精神を持って時代に対応し、様々な優れた人材を世に送り出した福沢諭吉。

言うまでもなく、今日ある学者・研究者の魁であり、大先達である。しかも、単に西洋の考え方を取り入れ、著述し、後進に教授するだけの学者・教師ではなかった。「福翁自伝」は、福沢諭吉の豊かで深い人間的なひろがりを感じさせる名著である。

明治32（1899）年に出版された一冊の本が未だに色褪せない。これが希有な感動でなくて何であろう。或いは現代が20世紀末に至ってなお、福沢諭吉の理想から程遠い世の中であるからかも知れない。

3

筆者が福沢諭吉の言葉ですぐに思い出すのは「独立自尊」。自分自身を大切に出来ないでは、他の人のことを認めることも大切にすることも出来ないであろう。

4

福沢諭吉のえらさは自伝の至る所から拾いだせるが、一人諭吉だけがえらいのではない。まず母親がえらかった。諭吉が子供の頃の話として、有名な「乞食の虱取り」の話がある。筆者は子供の頃見た本の挿絵を覚えている。諭吉の母親が一人の女乞食の髪を洗ってやっている絵であった。

ひと言で言えば、人を差別しないということ。士族は大変横暴であったようだが、町人にも農民にもわけへだてなく接する母親の姿を見て諭吉は育った。

又、諭吉の憎んだ最大のものは門閥制度。子供同志で遊ぶ時でさえ言葉使いが定められていたという。後になって著わした「学問のすすめ」で『「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり」という有名な言葉（平等思想）を生むが、諭吉の生い立ちの中で育まれて、必然的に熟成された思想と言って良い。

母親がえらかったと書いたが、父親もえらかった。うだつの上からぬ下級士族ではあったが、志ある学者であった。

5

「福翁自伝」の魅力は書くに値した人生がそこにあるからばかりではない。口語文の面白さがいい。諭吉は大坂・中津（現大分県）・長崎・江戸と点々としたので、色々ななまりがそのまま出ている。これがいい。福沢先生から直にお話を伺っているような気持で読むと、もっと楽しく読めるであろう。

福翁自伝（日本人の自伝1）

平凡社 1981年発行

（資料サービス係長）

閲覧室の模様替えについて

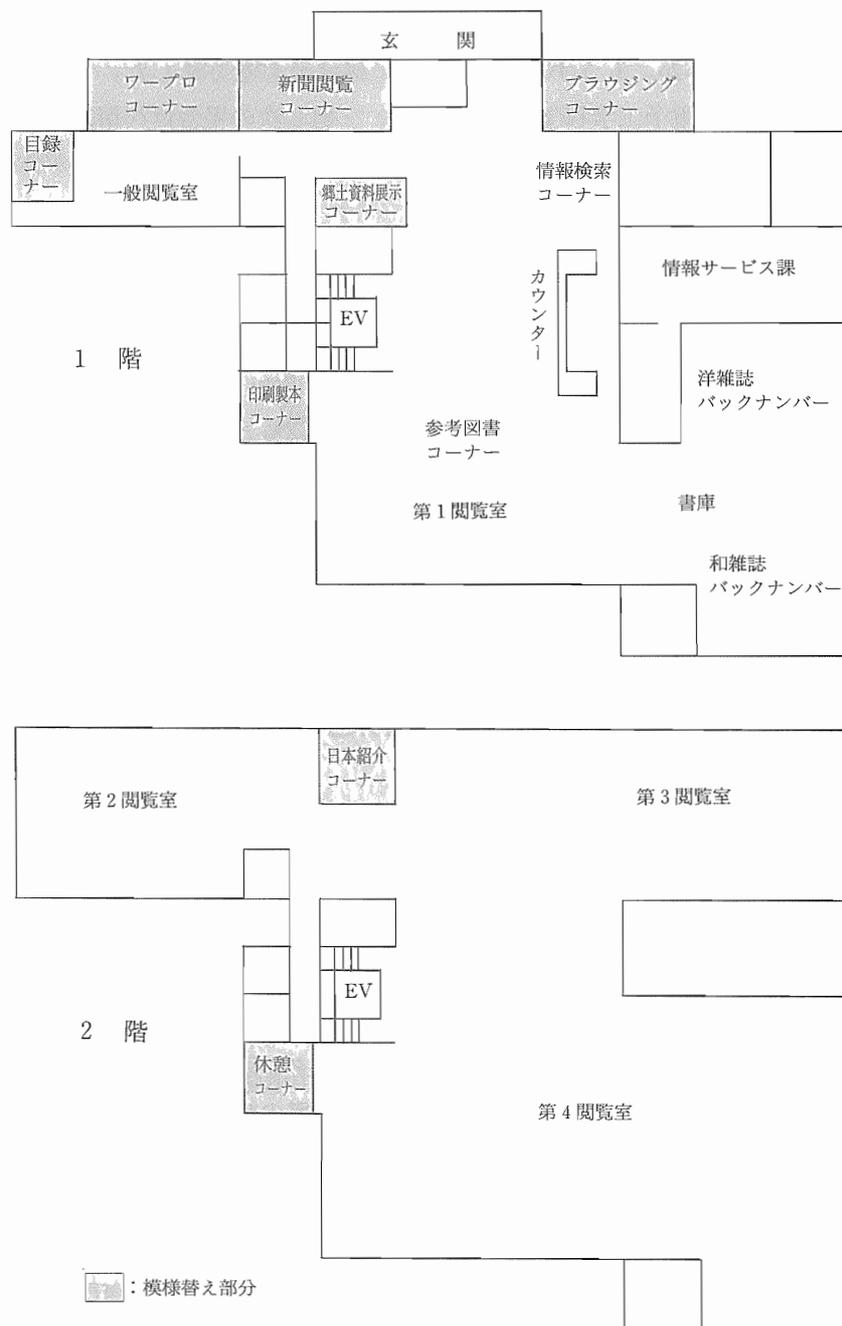
図書館は6月30日に模様替えを行いました。

学習・研究の場としての快適な空間を提供するために、下図のように1階及び2階閲覧室の環境を整備しました。

1. 玄関周辺が明るく広く感じられ、図書館らしくなりました。
2. ワープロコーナーを新設しました。電源を設

けましたので、持込みのワープロはこのコーナーでご利用下さい。

3. 2階休憩コーナーに現行法規総覧、医学大辞典、植生図を移動しました。
4. ブラウジングコーナーを2階から1階に移動しました。換気扇を設けて、喫煙しない方への配慮も行っています。 (資料サービス係)



投書箱「図書館の窓」へのお答え

(本年3月～9月20日投書分)

ご意見、ご要望を有難うございました。ここに回答致します。規則上の制約などから、現時点では要望に応えきれない面もありますが、今後の利用者サービスの参考にさせていただきますのでご諒解下さい。
なお、投書は備え付けの用紙に記入して下さい。

1. 施設について

- ①照明が少し暗いのではないかと。もうすこし明るくしてほしい。(工学部電気電子工学科学生)
- ②クーラーがききすぎているようです。(無記名)

① 閲覧室の照度は、JISによる適正照度(750～200lx)となっています。経費節減・省エネ対策として、日中は窓際部分は消灯しています。

なお、曇天の日などは窓際も点灯するようにしていますが、気が付かない場合もありますので、カウンターまで申し出て下さい。

② 設備及び建物の構造上、閲覧室の場所によって温度が異なり、均一にはなりません。暑い寒い個人差がありますが、暑過ぎる場合、寒過ぎる場合はカウンターに申し出て下さい。出来る限り温度調節します。

2. 図書館資料について

①月刊PHPと別冊PHPを入れてほしい。(工学部電気電子工学科学生)

① 継続して購入していかねばならない雑誌については、予算・蔵書構成等諸事情から、現在は受け付けていません。購入雑誌の見直し等の機会には参考にさせていただきます。

3. 文献検索等について

①レファレンスサービスが17時までというのは少し早過ぎる。コンピューターだったら、終りまで使わしてくれてもいいと思う。(無記名)

②情報検索機をもう少し使いやすくしてほしい。

内容をもう少し入れてほしい(章のタイトル位は)。

貸出中であれば、それも分かるようにしてほしい。(工学部物質工学科学生)

① 平成7年9月1日から、OPAC(利用者用端末)が、開館中は平日も土曜日も自由に利用出来るようになりました。

但し次の場合は利用出来ません。

- 情報処理センターが休止の場合。
- 休日開館の日。
- 又、通常の開館日であっても、メンテナンス等情報処理センターの業務上の都合から利用出来ない場合があります。

② 「使いやすく」ということですが、具体的にどういうことなのか分かりません。毎月1回開いているOPAC講習会では、基本的な操作・約束事を教えていますので、その時にお尋ね下さい。

若干OPACについて説明致します。

OPACで検索出来る書名は、

- 本書名(通常の本のタイトル)
- 別書名(本書名に加えて別のタイトルがあるもの)
- 副書名(サブタイトル)
- 叢書名(シリーズ名)
- 合本された本の、それぞれの元の書名。
各章のタイトルは入っていません。

OPACのデータベースは学術情報センターからデータを取り込む形で構築しています。それ以外に図書の細かな内容まで加えると作業量が膨大になり、残念ながら現状では対応出来ません。

OPACの特徴として、特定の書名や著者を求める時には威力がありますが、特定の主題(テーマ)で探す場合、内容が専門的に細かくなりますと検索は困難です。

検索した結果見つけた図書が貸出中かどうかは、OPACの画面からは分かりません。OPACのシステムと貸出・返却のシステムはリンク出来ないまったく別のものだからです。

OPACで表示された資料IDでカウンターの係員にお尋ね下されば、貸出中の図書の返却予定日をお答え出来ます。(但し、12:00~13:00, 17:00~18:00を除く)

4. 貸出・返却について

①図書の未返却の方の名前が張り出してありますが、「農学部(獣医学科を含む)」と書いてあるのはどうしてですか。獣医学科は農学部ではないのですか。(農学部獣医学科学生)

②貸出冊数を増やしてほしい。貸出期間も延ばしてほしい。(工学部物質工学科学生)

① ご指摘のとおりです。今後は()部分は削除して掲示をします。

② 貸出冊数は増やす方向で検討中です。しかし、貸出期間については変更する考えはありません。現在1回につき14日間借りることが出来、加えて1回更新を認めています。つまり約1カ月の間一人の人が独占することになるわけです。他の利用者への影響を考え、これ以上貸出期間を延長しませんのでご諒解下さい。

5. その他

①本来図書館は静かなところであるのに、この図書館はかなりうるさい。もう少し静かにならないか。(工学部物質工学科学生)

① ご指摘のとおりです。図書館では様子を見ながら時々注意をしていますが、基本的には利用者自身の自覚を待つ以外ありません。お互いに注意しあって静かな図書館作りにご協力をお願いします。

(資料サービス係)

平成6年度電気通信普及財団の寄付金による購入図書資料について

鳥取大学附属図書館は、平成6年度より電気通信普及財団から「次の世代を担う学生に、電気通信に関する理解を深めてもらいたい」という趣旨によって寄付金を受け、図書等の購入を行っています。

ここに平成6年度購入分をご紹介します。リストは書名のABC順です。

1. 受入冊数 86冊
2. 配置場所 総て閲覧室
3. 寄贈表示 タイトルページに「(財)電気通信普及財団寄贈」と表示
4. 利用形態 一般図書：学生の貸出期間は2週間
参考図書：辞書類は禁帯出。館内での閲覧のみ。

書名・著者名・巻次・版次・出版者・出版年

ASIC技術の基礎と応用 今井正治 電子情報通信学会 1994
CASEツール：機能解説と活用のノウハウ 佐藤正美 ソフト・リサーチ・センター 1989
電力新設備要覧 平成6年度版 日刊電気通信社 1994
電子部品市場要覧 科学新聞社 1995年版 科学新聞社 1994
電子デバイス活用辞典 電子デバイス活用辞典編集委員会 工業調査会 1994

電子・情報・通信機産業の展望：NECの事例研究 大内淳義 中央経済社 1994
電子工業年鑑 電波新聞社 電波新聞出版部 1994
データ通信/伝送技術の基礎講座 雨宮正 総合電子出版社 1994
デジタルサーボのソフトウェア：サーボ制御の理論から実用プログラムまで 佐々木能成 近代図書 1994
デジタル信号処理 羽鳥光俊 丸善 1994
衛星通信入門 野坂邦史 新版 オーム社 1994
液晶とディスプレイ応用の基礎 吉野勝美 コロナ社 1994
遠赤外線リモートセンシング熱計測法 岡本芳三 コロナ社 1994
エレクトロニクス接合技術 エレクトロニクス接合技術編集委員会 工業調査会 1994
画像計測 土屋裕 昭晃堂 1994
現代計算機アーキテクチャ 斉藤忠夫 オーム社 1994
はじめて学ぶ知的所有権法 清水幸雄 三嶺書房 1994
初めて学ぶ基礎制御工学 森政弘 東京電機大学出版局 1994
半導体材料基礎工学 前田敬二 日刊工業新聞社 1994
光ファイバ実用マニュアル 川瀬正明 日本規格協会 1994
IC組合せ論理回路の設計 野崎真 日本理工出版会 1992
インターネットユーザーズガイド Krol, Ed 改訂版 インターナショナル・トムソン・パブリッシング・ジャパン 1995

- イラストで読むネットワーク入門 Derfler, Frank J. インプレス 1994
- 磁気記録の基礎 Mallinson, John C. 丸善 1994
- 情報ネットワーク 岡田博美 培風館 1994
- 情報ネットワークの構成と通信サービス 岡本俊彦 オーム社 1994
- 海中ロボット総覧 浦環 成山堂書店 1994
- 企業内教育システムハンドブック：ソフトウェア技術者教育の事例にみる 君島浩 ソフト・リサーチ・センター 1992
- 高性能セラミック基板：電子回路用 日本電子材料工業会 日本工業出版 1994
- 国内検定のための電気製図テキスト 日本電機工業会 改訂新版 電気書院 1994
- コンピュータアーキテクチャ 馬場敬信 オーム社 1994
- コンピュータアーキテクチャ 富田真治 丸善 1994
- コンピュータアーキテクチャ：設計・実現・評価の定量的アプローチ Patterson, David A. 新装版 日経 BP 社 1994
- コンピュータネットワークの基礎 富澤儀一 朝倉書店 1994
- 高速広帯域通信とネットワークング 青木利晴 培風館 1994
- 広帯域通信ネットワーク 塚田啓一 昭晃堂 1994
- LAN ネットワーク管理技法 Terplan, Kornel ソフト・リサーチ・センター 1994
- LAN ネットワーク設計と性能評価 辻川直輝 ソフト・リサーチ・センター 1994
- 膜回路形成技術 ハイブリッドマイクロエレクトロニクス協会 工業調査会 1994
- マルチメディア白書 マルチメディアソフト振興協会 1994
- マルチメディア時代のデジタル放送技術事典 日本放送協会放送技術研究所 丸善 1994
- マルチメディア事典 デジタル・クリエイターズ連絡協議会 朝日新聞社 1994
- マルチメディア情報処理 日本学際会議 共立出版 1994
- マルチメディア工学：将来の展望と実用化に向けて 中嶋正之 昭晃堂 1994
- MPEG/マルチメディア符号化の国際標準 安田浩 丸善 1994
- 無線データ通信入門解説：情報ネットワーク技術 無線データ通信研究会 ソフト・リサーチ・センター 1994
- 無線 LAN 技術講座：ネットワーク・ユーザのための 重野寛 ソフト・リサーチ・センター 1994
- ネットワーク・アーキテクチャ 島田禎晋 オーム社 1994
- ネットワーク・ノード方式 江川哲明 オーム社 1994
- ネットワーク・オペレーション 吉田真 オーム社 1994
- ネットワーク産業の展望 南部鶴彦 日本評論社 1994
- 日本半導体年鑑 プレスジャーナル 1994年度版 プレスジャーナル 1994
- 日本的生産システムと企業社会 鈴木良始 北海道大学図書刊行会 1994
- 21世紀へのソフトウェア品質保証技術：日科技連ソフトウェア品質管理研究会10年の成果 菅野文友 日科技連出版社 1994
- ノイズ対策ハンドブック ノイズ対策研究会 日刊工業新聞社 1994
- ニューメディア概論：情報・通信・放送の先端技術 手塚慶一 新版 朝倉書店 1994
- オプトロニクス光技術用語辞典：先端科学用語から現場用語まで 小柳修爾 オプトロニクス社 1994
- パソコン活用のモンテカルロ法による放射熱解析 谷口博 コロナ社 1994
- パソコン LAN とインターネット技術：たとえ&絵解き 小林佳和 NEC クリエイティブ 1994
- プログラマブルコントローラの新しいプログラミングテクニック：シーケンシャル・ファンクション・チャート (SFC) 入門 青木正夫 近代図書 1994
- ロボットを導入した生産システム：ハンドリングと組立を中心に実際の設計研究会 日刊工業新聞社 1994
- 最新情報技術用語辞典 井上寿雄 オーム社 1994
- 最新ソフトウェアエンジニアリング：CASE の考え方と実践 Lewis, T. G. 日科技連出版社 1993
- 最適制御の理論と計算法 志水清孝 コロナ社 1994
- 生産情報システム 太田雅晴 日科技連出版社 1994
- Sendmail 解説：Help for UNIX system administrators Costales, Bryan インターナショナル・トムソン・パブリッシング・ジャパン 1994
- 線形システム理論 須田信英 朝倉書店 1993
- センサー技術の基礎と応用 大森豊明 幸書房 1994
- 先進セラミックス：基礎と応用 日本学術振興会高温セラミック材料第124委員会 日刊工業新聞社 1994
- 専用計算機によるシミュレーション：デスクトップ・スーパーコンピュータ入門 杉本大一郎 朝倉書店 1994
- システムコンサルタントのスキルと実践技法：情報技術で経営を支援する 渡辺純一 ソフト・リサーチ・センター 1993
- ソフトウェア品質管理事例集 日本科学技術連盟 日科技連出版社 1990
- ソフトウェア工程管理技法：進め方と実践的手法 高根宏士 ソフト・リサーチ・センター 1991
- ソフトウェア・プロジェクトの実績データ収集・分析技法：ソフトウェア品質保証のための 大場充 ソフト・リサーチ・センター 1993
- ソフトウェア・プロジェクト管理：技法と実践事例 上 ソフト・リサーチ・センター 1990
- ソフトウェア・プロジェクト管理：技法と実践事例 下 ソフト・リサーチ・センター 1990
- ソフトウェアプロセス成熟度の改善 Humphrey, Watts S. 日科技連出版社 1991
- 総論 ハイブリッドマイクロエレクトロニクス協会 工業調査会 1994
- 数値流体工学 荒川忠一 東京大学出版会 1994
- ステッピングモータとマイコン制御 見城尚志 総合電子出版社 1994
- スタックコンピュータ：CISC/RISC とスタックアーキテクチャ Koopman, Phil 共立出版 1994
- 太陽エネルギー工学：太陽電池 浜川圭弘 培風館 1994
- テストロニクスとその応用 西畑三樹男 日刊工業新聞社 1994
- 通信用フィルタ回路の設計とその応用 小西良弘 総合電子出版社 1994
- ULSI の効果的な設計法 中村行宏 オーム社 1994
- 図面の英語：図画英語の読み方・書き方 板谷孝雄 総研出版 1994

(資料サービス係)

情報検索コーナーからのお知らせ

従来のOPACコーナーにCD-ROM用パソコンを加えて、「情報検索コーナー」としました。CD-ROMは、スタンドアロン用一台、LAN対応二台で利用出来ます。

図書館の開館中、OPACは利用出来ます(但し日曜日・祝日の開館時は除く)が、CD-ROMの利用時間帯は、平日の9:00~17:00となっています。

さて、平成6年度より、OPAC講習会、CD-ROM講習会、ビデオ「図書館の達人」上映会を週と曜日を月ごとに替えて、8月を除く毎月それぞれ一回ずつ行ってきました。今回は、一年間担当した係員のOPACの利用者へのアドバイスをまとめてみました。

- ①このOPACで探したせるものを知っていますか。入力されていないものは、いくらキーボードをたたいても出てきません。

OPACには、平成2年度以降鳥取大学附属図書館(米子地区を除く)で受け入れられた図書及び開架閲覧室の図書の約85%が入っています。雑誌(紀要類を除く)に関しては、レファレンスデスクの洋雑誌目録(冊子体)とデスク横の和雑誌目録(カード目録)をご利用ください。

- ②端末機との対話方法をご存じですか。取決められた約束にそってたずねない限り、正確な回答をもらうことは出来ません。

例) 検索の一番の基本は、半角のカタカナかローマ字で探すこと。単語単語に区切ること。ローマ字で探す場合、長音は無視すること。「ん」は「N」ひとつ。漢字入力をするると落ちる領域、漢字入力をしないと掛かってこない領域があります。

- ③思いこみは危険です。利用者の、ある言葉への概念がシステムで使われているものと同じとは限りません。

例) キーワード検索の「キーワード」とは、主題・内容を表す一般的な意味で使われているものではありません。もっと幅広く「手がかりになるもの」の意なのです。ですから、書名も著者も出版者も出版年も、そしてもちろん主題も含まれています。主題を手がかりとする時には、「国立国会図書館件名標目表」に載っている言葉を記載されているとおりの形で入力しない限り正確な回答を得ることは出来ません。

(学術情報係)



平成7年度図書館カレンダー（その3）

曜日	12月	1月	2月	3月
日				
月		1 ●元旦		
火		2 ●		
水		3 ●		
木		4 ●	1	
金	1	5	2	1 図書整理日
土	2	6 ●	3	2
日	3 ●	7 ●	4 ●	3 ●
月	4	8	5	4
火	5	9	6	5
水	6	10	7	6
木	7	11	8	7
金	8	12	9	8
土	9	13 ●	10	9
日	10 ●	14 ●	11 ●建国記念の日	10 ●
月	11	15 ●成人の日	12 ●振替休日	11
火	12	16	13	12
水	13	17	14	13
木	14	18	15	14
金	15	19	16 後期定期試験開始	15
土	16	20	17	16 ●
日	17 ●	21 ●	18 休日開館	17 ●
月	18	22	19	18
火	19	23	20	19
水	20	24	21	20 ●春分の日
木	21	25	22	21
金	22	26	23	22
土	23 ●天皇誕生日	27	24	23 ●
日	24 ●冬季休業日 ~1/16	28 ●	25 休日開館	24 ●
月	25	29	26	25 ●卒業式
火	26	30	27	26 春季休業日 ~4/8
水	27 図書整理日	31 図書整理日	28	27
木	28 ●		29	28
金	29 ●			29 図書整理日
土	30 ●			30 ●
日	31 ●			31 ●

(開館時間)

□ 9:00~20:00

□ 10:00~16:30

■ 9:00~17:00

■ 図書整理日

(一般閲覧室・新聞

閲覧室・ブラウジング

コーナーのみ開室)

● 休館日

※開館日程が変更になる場合は、事前にお知らせしますので、掲示にご注意下さい。